て密孔て腋度表 スは下の体異にで測窩を面体 は ま、腔し膚の 測 は、原温度の温度の温度の温度の温度の温度の温度の温度の温度のこれでは、深温度のこれでは、 定部 なな度 におどを一部によいける 莅 よ はも般の つ厳耳つに温

て差は下ンて床へ 一てま温 均熱 一た般体す。質の 岩は産 定れの温 健はそ枢 `生 保多康上のに脳と た少者昇バよの体 れのでやラっ視外

℃平の平 台熱で熱正 のがすと常正 方36°か**常** ℃し平平 い台か温常平 まのしと 方個呼体 も人ば温体 つい差れは温 つまり、正れているもれているもは、一般に

> 1 す状人常 態差体 に・温 よ日と つ差い て・っ 値行て は動も 変差、わな年 つど齢 て 個 差 き人・ まの個

少の能10経120100体安 温定新 こごろか はで生年37 / 児齢 を過 ℃外期差 ぎると 小意に発熱すると同じようになると体温のであるとないした。 以上あれる 5 37 $^{\circ}$ C めりまる響される場所に 以 下 ます。生後れやすく、機能は不っ なり、温の調節 きま2 な 節す年 0 がこ機

がくし窩窩なぜれ得いた温のつなる い間温に収り下は齢まとに計な縮、組低者す 組低者す。 とに計な縮 いよのるな皮織いは っ密のど膚のも一 て着ににの循の般 は状時よ硬環でに に最態間の化がす。 測 あ上がをて 悪 定 り値悪要腋腋くなさ



2 ・ エ

ま違自 に神人 よ経差 り系 体や 温内 に分 個泌 人系 差の が機 あ能

3 h o

4. が体はでム 休息 一体の 体温一体の同 と午前生っ い後2じ て、 3 3 6 す わ れ $- \mathcal{O}$ 。日生 て 8 時 はませいませいませいませいません。 健の活

5.ははや傾のの皮はそ産運も下休内向放流膚上れ生動、同 ル康そ降温分に散れの昇にがや骨一行温が般温違一日すい律個 ま昇影ますし血すつにをを同する響すのく管。か多し動じ ムナのとで すってながまない。 さ、りがなった。 さ、りがなった。 さ、りがなった。 なり、皮になって、なり、は、なられて、なり、は、なられて、なり、は、なられて、なり、は、なられて、ないので、は、ないので、は、ないので、は、ないので、は、ないので、は、ないのでは、ないのでは、ないのでは、 、 る き ト ら 体 睡精ら体 版 眠神に温皮し入で、 、いっぱて浴、放 ·`` あ 飢興食下か血後体散熱多つ え奮事降ら液は温がのいて

体 働可 き能 にな よ女 つ性 は、 7 基 礎黄

凍

発行所

中込内科医院 〒010-0973 秋田市八橋本町3-1-5 TEL 018-862-1564 FAX 018-866-4655

E-MAIL nakagomi@cna.ne.jp http://www.cna.ne.

いのるで始体

ま差まあま温 すはでりつに

[^]、て変

、排か化

0 高卵らが · 温後排あ 33 レナ

とか卵り ℃なら前ま

り月ます

すがは月 。始低経

てそま温が

いま経で

ip/~nakagomi/

平は

均

わ

高 < 熱な とうた 0 つ状 熱 態

2 す内限激て な常合調な血体 がを 1 Ⅲ 低 るの界し体うつ体に節ど球温発あ高体 体低場含以い温つた温生機のに調熱り体温 高体 体生っさ暑い℃とくっ因の下 さてれるい以しなて子毒部 がれたにす。高はた体抗・あ 、 つ 昇体の く平場温体白る

のす諸身ま失老低 。機体た調衰く低 なや 凍障著のに全の常 死冱害明低み身状体 とがに下ら衰態温 いおなにれ弱をよ こるよま・いり つす 、て

度計) に体 は温体 の温 が 一 水測の 銀定 測 定器 体に

ます。などでは五 モにま温 にグラフィーには画像とし では耳式体温計が用いられラフィーが使用され、小児画像としてあらわされるサー 電子体温計 4式体温計がEイーが使用され 特殊な検査を 温用 (サ 計い 用れ、 査られ 水れ ーミス 銀る 実 てタ温体 れ児 ĺ 11 ĺ 験 度温

1

2.のう入 し水銀 で 水 水銀の体積の体積を細い 密い 膨閉ガ計 ラス管 張 て、 を 利 用温の したに関すれて も伴封

電子: 体計

て電て て、 感 温 号素に子 素 こかえ、 子 を 性を電視温の測点 す。 それ を 子定 処 回部 理路に であ

ま間おるるは便銀で示分すの測すがかのた、利体オオロ。剛士 です。予測式のかけるようになるようにないと測定したのまれるようにないません。 机です。 れ測時部 定腋 値 る てあな合く水計表10ま際予

> で注と 定 種 の注 の種類と性能を知っ任意しましょう。佐と高い値になること るのが大事です。 っ 使 だ と が から測があるの

に 窩 下 3

の方 最か2

部後理

部に先端をあてるよう |後下方に向かって、腋埋由から、体温計は前 |

7

ます。

図

 $\overline{2}$

6

定 方法

2. の下 て合 $\widehat{\iota}$ 版名 版名 の に に い ら 体 温 が 版 名 の で 、 版 名 の で 、 版 名 の で 、 版 名 の で 、 関 温 れ の 走 温 れ の 走 温 れ の 走 温 れ の 走 温 れ の 走 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま 温 れ の ま に か ら 体 温 れ の ま に か ら 体 温 れ の ま に か ら 体 温 れ の ま に か ら 体 温 れ の ま に か ら 体 温 れ の ま に か ら 体 温 れ の ま に か ら 体 温 れ の ま に か ら 体 温 れ の ま に か ら 体 温 れ の ま に か ら 体 温 れ の ま に か ら 体 温 れ の ま に か ら 体 温 れ の ま に か ら 体 温 れ の ま に か ら 体 温 れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ れ か ら ぬ か ら ね じ 測 て測 いおきます。 定 ので、発汗があってもそ窩の開放によって温度がし体温測定中は汗を拭く い部 たタオル・ 計 あら を 挿 か 入しま な ľ などで拭いる。 8 腋 す。 窩 を

た皮り腋せじ ま 心面 走温れのし 温近にく となって最います) 近 て脈位部あ置 測い血に位りで 定るがなはま同



6.行5つ44. \$ °C 側定します。側臥位の場合は 定中 らす。 痺同の右 Pのある 一部位で る場合が あの は体位を保持し る温 度 位で測定します。場合があるので、 差 **湯合は、** は 上 0 1 健側 な 5 0 0 た

図 1 腋窩皮膚温の分布状態 るがをい測でを

32.67

下測もれも察体終 てあ知温わ つの 小に

すべうの

体

1)

向 回きに体温がいなければのります。 もあに り 定 低 ま ŋ す。

事務長

奈良

32°C

腕三頭筋

1 か 確 認してみてくださ

文

148 図 1 • 医歯薬出版株式会社, 村中陽子他 看護ケア 2005 0) 根 拠と技 術

р

図2・石井範子他 看護協会出版会, 2003 基礎看護技術, 188

> 日 本

 \mathcal{O} 記 看 護 米 Щ

(今月

・・・・が、『どうしー」というに思われたインフルエンザが、最近になってまた流行しています。といます。どうぞ、予防(手洗います。どうぞ、予防(手洗います。どうぞ、予防(手洗います。どうぞ、予防(手洗います。どうぞ、予防(手洗がない(感染を拡げない)心配りさて、皆様には、集団かぜによっすり、しまったら、マスクを着きたいなってまた流行しています。といます(ウソでは一万五千円分使える所には、ちのや好きなことに使って頂かがよりではなく、美味しいます。といます(ウソではなく、美味しいがけるのや好きなことに使ってあいます。といます(本音ではなく、美味しいといる。というないなって思います(本音ではなく、美味しいというないというない。 いいる小にれ一編 、ま学中なた旦集 うす。別学でする が、別様でする が、別様である。 ン落記 フち

という方 でど